

**「わが国における高レベル放射性廃棄物 地層処分の技術的信頼性
－地層処分研究第２次取りまとめ－総論レポート要約」** [抜粋]

(2001年11月26日 核燃料サイクル開発機構)

総論として、これまでの研究開発により、

- ・地層処分概念の成立に必要な条件を満たす地質環境がわが国に広く存在し、特定の地質環境がそのような条件を備えているか否かを評価する方法が開発されたこと、
- ・幅広い地質環境条件に対して人工バリアや処分施設を適切に設計・施工する技術が開発されたこと、
- ・地層処分の長期にわたる安全性を予測的に評価する方法が開発され、それを用いて安全性が確認されたこと

といった技術基盤が整備された。

また、研究開発施設としてすでにENTRYやQUALITYが活用されており、さらに超深地層研究所（岐阜県瑞浪市）計画や現在北海道および幌延町に申し入れている深地層研究所（仮称）（北海道幌延町）計画が進むことにより、事業化に向けたスケジュールと整合をとりつつ、次段階の研究開発を展開していくことが可能な状況となる。

以上のことから、サイクル機構としては、わが国においても地層処分を事業化の段階に進めるための、信頼性のある技術的基盤が整備されたものと総括した。

(注) 下線はNUMOで記載